

平成26年度第1回「三番瀬専門家会議」結果概要

1 概要

- ・日時 平成26年9月18日（木）午後6時から午後8時まで
- ・場所 千葉県国際総合水泳場 会議室（習志野市）
- ・出席委員 4名（市川委員、岡安委員、箕輪委員、村上委員）
- ・議事「三番瀬自然環境調査」、「市川市塩浜護岸改修工事」、「干潟的環境形成検討事業」について出席委員から助言をいただいた。その他、「市川漁港整備事業計画」について報告した。

2 主な意見等

① 三番瀬自然環境調査

- ・調査地点を地図上に記載する等、調査方法を記載すること。項目の見出しと記載内容を整合させ、事実と考察は分けて記載すること。

② 市川市塩浜護岸改修工事について

< 1丁目のモニタリング調査結果 >

- ・生態系の回復という観点で見ると、種類数と個体数は対で見なければならない。
- ・個体の大きさにより被度は変わるので、被度と個体数は分けて見るべきである。
- ・アオサの繁茂が護岸工事によるものかどうか、水質、底質、生物のデータ等を突き合わせることによって何か言えるとよい。今後のモニタリングに期待している。

< 2丁目の整備方針決定と環境影響予測 >

- ・200m区間について、自然学習等を目的とせず900m区間と同様の護岸を整備する方針ならば、同様のモニタリングを基本として考えていけばよいだろう。
- ・秋は台風、青潮の影響を受けやすいため、今年9月のデータだけでなく過去のデータを含めて総合的に判断すること。
- ・海生生物について、少し沖合の生物も指標にいった方がよいのではないか。（横山委員事前提出意見）

③ 干潟的環境形成検討事業

- ・この干潟的環境の形成は、第3次事業計画8頁目の「三番瀬の再生における位置づけや役割」と整合するという理解でよいか。これまでの議論を反映し

たものであることを確認しておきたい。

- 小規模なので、干潟的環境の形成というよりも、三番瀬の環境にふれられる学習の場として検討することが現実的だろう。
- 整備費用が高くても、多くの人々が安らぎや海にふれあえる機会を得ることで総合的な価値は高くなる。アクセスに配慮して整備することにより、利用に見合った価値が見い出せるだろう。(古川委員事前提出意見)
- 干潟か公園か、事業主体は千葉県か市川市かが重要な条件になる。整備するのであれば、利用者がいつでも生物に触れられる場になるのが望ましい。(横山委員事前提出意見)

平成26年度第1回「三番瀬ミーティング」結果概要

1 概要

- ・日 時 平成26年10月25日（土）午後2時から午後4時45分まで
- ・場 所 浦安市中央公民館 4階 大集会室
- ・第一部では、東京海洋大学大学院 教授 岡安章夫氏（三番瀬専門家会議委員）に、「東京湾の沿岸災害と湾奥の津波・高潮リスク」について講演していただいた。
- ・第二部では、県から「市川塩浜2丁目護岸整備方針の決定」「干潟的環境形成検討事業」「市川漁港整備事業計画」の報告を行った後、三番瀬再生について意見交換が行われた。

2 主な意見等（第二部）

- ①市川塩浜2丁目護岸（残された200m区間）の整備方針の決定について
 - ・自然環境学習施設はぜひ作ってほしい。三番瀬の豊かな環境をアピールするためにも必要。
- ②干潟的環境（干出域等）形成について
 - ・三番瀬の浅場をつぶして人工干潟を作り、現在ある多様な底質の豊かな環境が損なわれるようなことがあってはいけない。
 - ・ラムサール条約の「湿地復元の原則」では現存する湿地の保全がうたわれている。既存の埋立地を減らし海域を増やさなければならない。
 - ・人工干潟を造成するなら、塩浜1丁目の養貝場をぜひ検証してほしい。
 - ・干潟で海にふれたい市民も多い。
 - ・砂を入れたところは青潮の時も貝が残る可能性が高く、水質浄化には二枚貝を増やすことが有効と言われている。
- ③市川漁港整備計画について
 - ・海上だけでなく水面の下の計画についても公開してほしい。
 - ・計画通り28年度に着工して市川漁港を早く整備してほしい。
- ④ラムサール条約登録について
 - ・再生計画で全く進んでいないのがラムサール条約登録だ。予算をとって促進してほしい。
 - ・ラムサール条約登録の前にまず漁場の再生を進めてほしい。
- ⑤青潮対策について
 - ・三番瀬で一番の喫緊の課題だ。干潟造成の前にまず青潮対策を行うべきだ。
- ⑥浦安の護岸の安全性について
 - 調査、計算をきちんと行い、新基準に適合していることを検証しているのか？その資料を公表してほしい。

平成26年度第2回「三番瀬専門家会議」結果概要

1 概要

- ・日時 平成27年2月12日（木）午後6時から午後8時20分まで
- ・場所 市川市文化会館 大会議室（市川市）
- ・出席委員 6名（市川委員、岡安委員、古川委員、横山委員、箕輪委員、村上委員）
- ・議事「三番瀬自然環境調査」、「市川市塩浜護岸改修工事」、「干潟的環境形成検討事業」について出席委員から助言をいただいた。その他、「市川漁港整備事業計画」について報告した。

2 主な意見等

① 三番瀬自然環境調査

<平成25年度鳥類調査結果概要（修正版）>

- ・次年度の調査では、調査時刻を固定せず、干潮時に実施するよう留意すること。

<平成26年度底生生物及び海域環境中間報告>

- ・全体として何が起きているか、環境が大きく変化していないかをわかりやすい形にまとめること。
- ・特にアサリについては、県内の他地域のデータと比較すると東京湾における三番瀬の位置付けがわかるだろう。

<平成27年度調査計画（案）>

- ・地点を選定する際の選定基準を明確にしておくこと。
- ・総合解析では三番瀬の全体の生態系がわかるようなまとめにすること。
- ・地形が重要なので、水深をきちんと把握しデータとして活用できる調査にすること。

② 市川市塩浜護岸改修工事

<1丁目のモニタリング調査>

- ・基盤の凹凸や泥質の部分が出来たこと等により、生物の多様化が進んでいるように見える。今後も市民調査等で調査を継続できると良い。

<2丁目のモニタリング調査>

- ・検証基準がマガキになっているため目標を達成できていないが、これまでのマガキの増減理由を含めて、もう少し科学的知見を積み上げて客観的な評価ができないか。

- ・モニタリングを9月に設定しているが、青潮の直後に実施しないよう留意すること。また、過去のデータを見る時にも青潮の有無を考慮すること。
- ・景観、利用の検証基準の表現があいまいである。今後適切に設定するというのであれば、そのように記載した方が良い。
- ・東京湾再生官民連携フォーラムや東京湾再生推進会議の指標も参考にすると良い。

③ 干潟的環境形成検討事業

- ・セットバックして干潟的環境を作るという話から結果的に大きく異なる案になっているため、事業を実施する場合は県民の意見を聞きながら丁寧に進めてもらいたい。特に構造物が A.P. 4m では視覚的にも圧迫感があるため景観についても検討が必要だろう。
- ・報告書では資料 5 - 3 の推定の仕方について根拠を明示すること。

④ その他報告事項：市川漁港整備事業計画

- ・現在の図面では、防波堤や突堤の底部が完全に閉じているのか把握できない。少なくとも水深の半分以上が空いていなければ、海流に影響があると思われる。
- ・環境影響について、漁港と護岸を単純に同じ基準で評価することはできないが、数値計算に基づいた結果を整理しておいた方が良い。

平成26年度第2回「三番瀬ミーティング」結果概要

1 概要

- ・日 時 平成27年3月14日（土）午後2時から午後4時45分まで
- ・場 所 船橋市中央公民館 5階 第3・第4集会室
- ・第一部では、千葉工業大学教授 村上和仁氏（三番瀬専門家会議委員）に、「水環境健全性指標による東京湾沿岸域の環境評価」について講演していただいた。
- ・第二部では、県から「市川塩浜1丁目護岸の完成」「干潟的環境形成検討事業」、市川市から「市川漁港整備事業」について報告後、意見交換が行われた。

2 主な意見等（第二部）

（1）干潟的環境形成検討事業について

- ・自然は人間の思いのままにならない。事故が発生する可能性もあり、財政的にも膨大な費用がかかる事業はやめてほしい。
- ・県は「海域を10%広げる」という愛知ターゲットの目標達成に向けて努力すべき。
- ・漁港整備と合わせて養貝場を活かした「海に親しめる場」を整備すれば費用的にも良い。
- ・河川とのつながりの回復や陸側に湿地を作る等、原点に戻って大きな計画の中で考えてほしい。
- ・20年間埋立てをしていないのに海の環境は悪くなっている。こんなに悪化したら人の手を入れなければ再生できない。海を浅くすることが求められているのではないか。
- ・砂が広がっても覆砂の効果があり、環境にも生物にも良いだろう。
- ・青潮対策として部分的でも非常に効果があると思う。試験的でもよいのでぜひやってほしい。

（2）ラムサール条約登録について

- ・20年間運動しており14万人の署名も集めたが何も進展がない。予算をつけて早期に登録してほしい。
- ・埋立てを防止し、三番瀬を保全するために条例や国際条約が必要だ。それは漁場の悪化を止めることにもつながる。
- ・登録さえすれば自然が守られるわけではないだろう。本当に14万人が登録を望んでいるのであれば、資金を出し合って行動しても良いのでは。
- ・漁業者と登録を推進する市民が、合意形成を目的として話し合える場を県にぜひ作ってほしい。

（3）青潮対策について

- ・毎年漁業被害がある。東京湾の水質は良くなっても生物は減少している。
- ・総量規制以外にも東京湾全体で改善に向けて前向きに取り組んでほしい。